

2023 年度外国語学部 FD 活動方針・活動計画

(英米学科、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科)

外国語学部では、2023 年度においても、FD 研修会および学部自己点検・評価委員会懇談会を軸として FD 活動を進める。

2022 年度の FD 研修会では、上智大学の吉田研作名誉教授による「大学の外国語教育に求められること What is required in considering foreign language education in tertiary education」と題した講演会を実施した。本講演会は、大学における外国語教育についての見識を深め、明確な学部将来像を探ることを目的としたものだった。2023 年度は、2017 年度の FD 研修より継続している、外国語教育の現状と課題の的確な把握（アクティブ・ラーニング、オンライン授業、E-Portfolio の効果的活用法等を射程に含む）のため、関連する外部講師を招聘するなどして研鑽を深めるとともに、オンライン・ツール活用を包含した教育能力の向上と、より効率化された授業運営を引き続き目指すこととする。

学部自己点検・評価委員会懇談会では、以下に示す各学科の活動方針・活動計画の実施状況を中心に、学科間での意見交換を行う。

2023 年度の各学科の FD 活動方針・活動計画は、以下の通りである。

英米学科

英米学科では 2023 年度の FD 活動として、以下のような計画を立てている。

- 1) 学科が管理する LL 施設の有効利用、および TA の効果的な活用方法などを検討する活動を継続していく。
- 2) 学科内ミニ FD の実施も含めて、学科内 FD 活動をさらに充実させる。
- 3) 学科カリキュラムと有機的に結び付けた視点から、長期の派遣留学生数の維持および更なる増加を図る方策の検討を行う。
- 4) 学科必修科目の内容および評価の標準化の努力を継続する。
- 5) 学科の各授業科目をさらに充実したものにするには何が必要か、学科会議等で議論を深めていく。
- 6) 学科運営のための学科内の役割分担の理想的な方法を模索する。
- 7) 講演会の実施
- 8) 英語教員セミナーの実施
- 9) Oral Interpretation Festival の実施

スペイン・ラテンアメリカ学科

- 1) 2023 年度は、2022 年度末に 2 名の教員が退職し、1 名の新任教員を迎える。新任教員に対しては、学科内で適切なサポートを行い、スムーズに学科業務に慣れてもらえるよう、学科全体で心がける。2023 年度は 6 名体制での学科運営となる。定員より 1 名少ない状況での学科内業務に加え、外国語教育センター関連の業務があり、また

学部長、国際センター副センター長、ラテンアメリカ研究センター長といった役職を複数の学科教員が兼任することから、空前絶後のタイトな学科運営になることが予想されるが、この状況を乗り切れるように努力する。早い時期から公募により学科教員の定員を補充する人事（スペイン語学）を進めたい。

- 2) これまで同様、ラテンアメリカ研究センターと連携を密にし、国内外の優れた研究者を招いて講演会・研究会を開催し、スペイン語圏に関する相互の意見交換と研究水準向上につなげる機会を持つ。
- 3) 国内外のカトリック大学との教育・研究面での協力・交流関係をさらに広げる。例えば、本学科と上智大学外国語学部イスパニア語学科の間で共同の科目運営ができるかどうか、あるいは、本学のラテンアメリカ研究センターと上智大学のイベロアメリカ研究所・ヨーロッパ研究所との交流を通じた連携が可能であるかどうかの検討を進める。また、コロナ禍のため2020年度より中断している教員の相互訪問による輔仁大学（台湾）との交流の再開を検討する。
- 4) 2022年度に発行できなかった学科の教育指導冊子 *Un, dos, tres al español* を2023年度中にpdf版で発行し、同時に2024年度の冊子版発行に向けて準備をする。学科のスペイン語教育に関するセクションについて大幅に改訂作業を行い、その他の部分についても加筆修正を行いながら、編集担当者と連携しつつ内容のアップデートを進める。
- 5) 学科必修スペイン語科目、あるいは、その他の言語科目については、引き続き、言語科目コーディネーターを中心に、運営上の微調整を行う。特に2024年度には2年生の言語科目を中心に大幅な変更が見込まれることから、言語科目コーディネーターを中心とした、ネイティブ教員との日常的な意見交換の機会がより一層必要となる。
- 6) 外国語検定試験（DELE や西検）の受験状況に関する学科学生へのアンケートを今年度はマークシート式で実施し、受験・取得状況の包括的な把握に努めるとともに、積極的な受験を推奨する。
- 7) 2023年度より導入された新カリキュラムや科目の開講時期の変更について、それらの教育効果を検討する。
- 8) 2022年度に実地での実施ができた海外フィールドワークを2023年度も引き続き実施する方向で進める。「海外フィールドワークB」（メキシコ）は、残念ながら2023年度は不開講となってしまったが、上智大学外国語学部イスパニア語学科とジョイントでオンライン実施した「海外フィールドワークB」（コロンビア）を、2023年度において実地で実施するかどうか、協議を進める。スペインでの「海外フィールドワークA」についてはコロナ禍以前の形態に戻すことを検討する。
- 9) 学外におけるスペイン語やポルトガル語のスピーチコンテストは、開催状況を見ながら、学生への周知を図るとともに、積極的参加を促し、発音や原稿の準備など、必要な指導を行う。
- 10) 2022年度に実地での上演を行ったスペイン語劇について、2023年度は古典を交えて

の上演に向けて検討と準備を行う。

フランス学科

- 1) 昨年度に引き続き、学科内において定期的にミーティングを開催し、授業内容の検討ならびに科目登録・授業運営方法の点検を行う。また、今年度は教員1名が留学を行い、フランス語科目における教員配置がやや変則的になるため、定期的に連絡および打ち合わせを行い、教育体制に不備が生じないようにする。
- 2) 昨年度より2年次から専攻分けが行われるようになったが、専攻間の人数の偏りが生じる傾向があるため、可能な対処方法について学科内で議論する。また、3年次からのゼミ分けについてもよりよい方法がないかを議論する。
- 3) 履修ガイダンスおよび学び方講座の開催、オフィスアワーの設置、学科ウェブサイトやSNSの充実などを通じて学生の履修指導、留学支援、学習支援を継続する。
- 4) 学生の海外留学を促進するとともに、フランス語劇、各種フランス語スピーチコンテストなどフランス語を活かした各種課外活動への参加を奨励する。
- 5) フランス語教育の効果を測定し、その結果をさらにその後の教育に活かすため、実用フランス語技能検定やTCFなどの外部語学試験の集団受験を促進する。
- 6) 昨年度に引き続き学科作成webpageの充実に努めるとともに、学科Facebookの更新、オープンキャンパスや高等学校での模擬授業により、学科の広報活動を行いつつ、各専攻の特長をさらにアピールするよう努める。
- 7) フランス語圏に関する専門的知識を有する専門家を招いて教員の研究・教育支援に資する講演会を（必要ならZoomにより）開催する。

ドイツ学科

- 1) 新年度からは、アフターコロナの授業運営体制への本格的な移行となる。これまで同様、授業運営等が円滑に進むよう教員同士が、コミュニケーションを密にしてより良い授業運営体制の構築を進める。また、この数年で得られたオンライン形式の良い点はしっかり活用しながら、学科イベントなどを行う。
- 2) 今年度も学科専任教員・外国語教育センター所属L.I.教員・非常勤講師との間で学生の学習状況についてクォーター毎に議論し、教育環境を充実する。
- 3) 学科教員による卒業論文の相互評価制度については、今年度もこれを継続し、より充実した成績評価に繋げる。
- 4) 今年度はドイツ人学生の招聘を再開し、学科生とドイツ人との国際交流を活性化させる。また東京横浜独逸学園やイエナ大学との交流も予定している。
- 5) ドイツ語弁論大会・オーラルインタープリテーション大会の開催の再開を検討するとともに、「ドイツ語劇」上演の継続可能な体制の構築を検討する。ドイツ語劇に関しては、今年度も非常勤講師にドイツ語劇関連科目の担当を依頼している。非常勤の先生とも連携しながら、今後の持続可能な継続を準備する。

- 6) 学科 HP を定期的に更新するとともに、学外への情報発信のプラットフォームと位置づけ有効活用を図る。
- 7) 高校からの模擬授業依頼は可能な限り引き受けるとともに、学生の協力も得ながら、ドイツ学科の魅力を積極的にアピールしていく。
- 8) Kreis やドイツ文化研究会など学科生の課外活動への支援を継続する。
- 9) キャリア教育については、引き続きキャリア支援課と連携しながら 1 年次生および 2 年次生に対して講演会の場などを設けて、キャリア意識の形成および向上を図る。VW や Audi 以外の長期インターンシップ企業の新規開拓も検討する。

アジア学科

- 1) 引き続き外国語科目と演習科目に重点をおいて、授業の振り返りを継続する。
- 2) 2021 年度の卒業論文判定会議で導入したループリックの改定の可能性も含めて検討を継続する。
- 3) 2020 年度より実施を中断せざるを得なかった「海外フィールドワーク A/B」の再開に向けて準備を進める。従来 Q2 に実施されてきた「海外フィールドワーク A」については、Q4 での実施に向けて準備をおこなう。
- 4) 効果的な学生指導ができるよう、引き続き学科教員間および学科教員と非常勤講師との緊密な連携を図る。
- 5) 学科作成ホームページの定期的な更新による充実を継続するとともに、2022 年度から新たに運用を開始した学科公式 Instagram の活用方法を学科会議で検討して、受験生や在學生に本学科の特徴を十分に伝えられるよう工夫する。
- 6) インドネシア語学習の意欲を高め、能力を向上させる一助として、インドネシア語スピーチコンテスト（2020～2022 年度は中止）を実施する方向で準備を進める。
- 7) 中国・台湾およびインドネシアへの国費留学希望者に対する説明会や個別支援を継続する。
- 8) 2020 年度から始めた輔仁大学の学生との SNS を利用した交流プログラムを継続して、近い将来に海外フィールドワーク A の授業計画に組み込めるよう検討する。また、2021 年度から試行的に開始した BINUS 大学との交流を継続する。
- 9) FA.com など在校生の課外活動への支援を継続するとともに、これら在校生の協力を得て 1 年次生の大学生活を支援する体制を堅持する。
- 10) キャリア教育については、引き続きキャリア支援課と連携しながら 1 年次生および 2 年次生に対して講習の場を設けて、キャリア意識の形成および向上を図る。

以上